

The Japan Academic Society for Ventures and Entrepreneurs

NEWS

日本ベンチャー学会 会報

地域ベンチャー企業が生き残っていくには

東洋システム株式会社代表取締役 庄司 秀樹

起業家といわれる人には、考え方の違いから、起業して会社を大きくした後目標の利益を得て解散するという人もいれば、途中で会社を売却し、また新しい事業を立ち上げる人もいます。しかし私の経験から一番大変なのは、地方において起業した会社を発展させ、地方に拠点を置きながら長く続けられるような体質の企業に育てていくことであると思う。企業生存率というデータがある。この数字を見ると長く続けることの難しさ、10年生存がどれほど大変かがわかる。どうしたらベンチャー企業が地方を拠点に長く生き残っているか、そのあるべき姿を自分の経験に基づきお話ししたいと思います。

ベンチャー企業は、その段階において競合もなく将来的に市場の拡大や潜在的需要が見込まれるなど、そういったビジネスモデルを開拓する。しかしながら、起業してみると計画通りに市場が拡大しないなど、思ってもみない問題に直面する。それら難題を克服し信念を貫き起業を成功させても、ここで終わりではない。いいビジネスほど成功するとすぐにライバルが登場し、時には大手も参入する。それが新しい技術の場合は何年後に陳腐化するなどの問題も発生する。それでも常にその道のトップを走っていなければならないし、それに備えての努力を怠ってはいけません。そのために必要なこととは、次の四つであると思う。

1. 強靱な精神力とチャレンジ精神

起業するとなかなか計画どおりには行かないことが多い。予想していなかった障害を乗り越えて、一歩ずつ力をつけて大きくなっていく。何回ピンチにたたされてもそれを乗り越える精神力の強さが必要である。途中であきらめたら終わりである。私は常日頃「出来ない、やれない、わからないは言わない」と社員に言っている。不可能を可能にしていく力を蓄え、常に挑戦者であることを忘れてはならない。

2. 情報の収集と発信

私はさらに「10年後は何をやるか」という質問も社員によく言っている。ベンチャー企業が生き残るためには、時代の変化をすかさず読み取り、次に何をやるかを考える力も必要である。そしてそのためには情報収集能力が必要である。情報収集についてインターネ

ットが発達しても、インターネットに載る前の生の声(生の情報)を聞く必要がある。スマートフォンが登場した時、ほとんどの人がこの急激な変化を予想しなかった。普及にもっと時間がかかると思ったはずである。同じように、これから10年後20年後はもっと想像のつかない急激な技術革新や変化が起きるかもしれない。その予兆を見逃さないためにも生の情報収集は大切である。顧客のニーズに耳を傾けながらじっくり事業を作り上げていく余裕があるときもあれば、急激な時代の変化に合わせて変革していく必要があるときもあるのである。さらに質の高い情報を得るには、自分も質の高い情報を発信できる人間に成長していないと難しい。自分を磨くことはいつの時代も必要である。

3. 社会的責任と社会貢献

欧米のように、もっと手軽に数多く起業するところもある。簡単に起業して上手くいかないとすぐやめる。それも一つの考え方であり、起業した初期段階はそれでいい。しかしながら、成功して取引先や従業員、その家族が増えればそう簡単に事業をやめるわけにはいかない。それが企業の社会的責任である。ベンチャー企業が特に地方で成功し生き残っていくには、社会的責任を果たすとともに社会から必要とされる企業でなくてはならない。そのための社会貢献も必要と考える。EOYの世界大会に出場するとそれがよくわかる。成功している企業ほど、社会に必要とされ社会に還元している。

4. 夢がありその夢を持ち続けられる

起業したばかりのころの夢とある程度成功し成長した段階の夢とは違っていいし、変わっていいと思う。大切なことは夢を持ち続けることであると思う。そしてそれがモチベーションの高さにつながる。それは社員に対しても同様で、社員にも夢を見せる。ベンチャー企業が長く生き残っていくには大切なことであると思う。

以上のようなことが出来る、魅力あるベンチャー企業が地方で起業し地方で数多く育っていけば、若い人たちも地方にとどまり、それが地方創生につながると思っている。